

平成 15 年度
特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟
第 2 回常任理事会 議事録

日時 平成 15 年 11 月 15 日(土) 午前 9 時 30 分～午前 13 時

場所 (社)東京都障害者スポーツ協会

出席 伊佐、目黒、安江、田中、荒井、斉藤、平野(敦)、秋田、平野(恵)、花澤、
大久保、野村

欠席 田村、野澤、坪井、長谷部

記録 齊藤(事務局総務)

資料訂正：P.19 の資料は、P.18 の資料と同一の物であるため削除

報告事項

1. 強化部報告

杉並区スキー連盟よりの寄附金と創立 50 周年記念祝賀会 p.3

杉並区スキー連盟から 50 万円の寄付金をいただいた。これは、強化部内でのポール代とすることとした。また、過日行われた杉並区スキー連盟設立 50 周年記念祝賀会に田村会長と佐藤アルペン監督が出席した。

競技登録者関係 pp.4-8

競技登録者の最新名簿は P.4 からを参照。今期の競技登録者はアルペンが 114 名、クロカンが 45 名である。現在、競技登録者数と登録料の振り込み金額が相違しているため、確認作業を行っている。

会計役員について

本来ならば、HSAJ から推薦のあった岡安氏に、昨年度から本連盟の会計を依頼する予定であったが、昨年度は NPO 法人として設立年度ということもあり、会計の一切を事務局にて行った。本年度からは岡安氏に会計を引き継ぐ予定であったが、岡安氏から本務の都合により、本連盟の会計を行うことが今は困難であるとの申し出があったため、現在は臨時的に河井理事が本連盟の会計を行っている。

強化指定選手及び WC・世界選手権派遣選手関係 pp.9-23

強化指定選手をはじめ、本年度競技者登録をした選手に P.9 からの資料を発送した。

P.10 にある、強化指定選手および世界選手権派遣候補者の No.9 鈴木猛史選手が、シーズンが高校受験と重なってしまっているため、世界選手権派遣候補を辞退した。本件に関しては、強化部内で承諾済みである。

P.11 にある世界選手権大会選手団名簿のスタッフ、メカニックが委嘱中となっているが、ドクター、スタッフを含め今月 21 日までに正式に人選を行い、JPC に名簿を提出する。ワールドカップ及び世界選手権大会に関しては、メディア関係に広く広報することとし、この広報を、坪井理事に一任する。また、強化部からは大会に関する詳細情報を広報

担当に連絡する。

P.13 のアルペン強化スタッフ名簿にあるメカニック、ワックスマンも、現在委嘱中である。またこの名簿内にあるチェア協会から派遣されている総務員の自宅住所が記載されているが、本人から承諾を得ていないため、控えて欲しい。今後、このような名簿に本人住所を記載する際には、必ず事前に承諾を得ることとする。

P.18 にある連絡先として、佐藤監督の連絡先が全て記載されているが、このような事務連絡は強化部総務で行ったほうがよいのではないか。

ジュニアスキーキャンプ(SSF 関係)日程等変更について p.24

SSF 助成事業ジュニアスキーキャンプのクロカン開催日程を 12 月 27 日～29 日に変更し、会場を野沢温泉スキー場に変更した。この変更届の手続きは、遠藤強化部総務が行っている。

IPC Alpine Skiing SAEC Meeting について pp.25-67

過日松井理事にご参加いただいた IPC 会議については、資料参照。

この会議の議事録が届き次第、詳細の報告を行うこととする。また必要に応じては松井理事に本連盟の会議にご参加いただき、ご説明をいただくこととする。

尚、ワールドカップルールブックドラフトバージョンと、アルペンスキルルールブックドラフトバージョンを資料添付しているのので、各自参照願いたい。

質問等があれば強化部を通して、松井理事へ伺うこととする。

兵後選手の判定の件に関して

齊藤普及部長より、過日開催された総会時に兵後選手から挙げられた質問項目に対し、強化部から文書での回答をするとあったが、その後強化部ではどのような対応をしているのかと質問があった件に関して、強化部から以下のような説明があった。

本件に関しては、現在ドクターの李先生と判定日時の打合せをしている。この判定結果で兵後選手のクラスが B3 であるとされた場合は、世界選手権に連れて行き、そこで再度クラス判定を受けることとする。尚、その際にかかる遠征費用は兵後選手の自己負担ということです承している。

また、本件に関しては現在、電話やメールで兵後選手と話を進めている。

世界選手権派遣チームのユニフォームに関して

現在チームのユニフォームはどうなっているのかという確認があり、目黒アルペン部長よりミズノへ依頼したが不成立となったこと、現在はオンヨネに依頼していることが報告された。

2. 普及部報告

普及部会議関係 pp.68-69

先日 9 日に開催された普及部会議の報告があった。

資料 P.68 にある議事録中の SAJ-IFD を SAJ-FID に訂正する。

知的障害者スキー指導法講習会 pp.70-71

現時点での最新資料として P.70-71 を参照願いたい。

資料 P.70 の協力欄にある(財)日本障害者スポーツ協会、障害者スポーツ指導員協議会は

スポーツ協会のみ表記とし、SAJ並びにSIAとあわせて後援とし、それぞれに後援依頼文書を出すことを検討する。

また、指導法講習会の対象者として、「障害者スポーツ指導員資格を所持し、かつ」と表記されている点を「または」として必ずしも障害者スポーツ指導員資格が無くても、SAJやSIAの有資格者であれば対象とすることを検討する。

3. 事業部報告

ウィンターリゾート 2004 関係 p.72

11月初旬にウィンターリゾート 2004 が開催された。本イベントでは、昨年を上回る広報ができた。

来年の開催に関しては、本年度よりも SAJD の周知を図るために、クロカンのパネルも貼る。SAJD のフライヤーをより多く配布する。などを考えているが、具体的には今年の反省を踏まえ事業部で検討する。

また、ウィンターリゾート 2004 開催期間中に配布した郵便振替が功を奏し、既に賛助会員を 1 名 2 口獲得した。

JP2004 関係 別紙資料参照

選手、役員の宿泊施設は、現在も検討中である。

別紙資料にある JP2004 申込書に、各個人のマテリアル情報を記載できるようにする。競技ルールとして SG ではマテリアルの最長を FIS ルールに則り 205cm にするのか、または 200cm にするのかなど、具体的な競技ルールに関して、今後強化部と事業部で早急に協議し、追って報告する。

また JP2004 に関して、スポ協と 19 日に会議が開かれるので、追って結果を報告し、必要に応じてメールベースの会議を行う。

また各正会員団体からの連盟事業部員には、強化部スタッフ同様に委嘱状を送付する。事業部の編成については、2004JP 特別委員会として発足していた経緯もあり、今年度中は委員会のメンバーを事業部に当てる。

事業部担当副会長目黒、事業部長平野、事業部総務：長谷部、河井、花沢、大久保

4. 正会員団体報告

HSAJ

第 3 回の全国身体障害者スキー大会を、北海道名寄で予定している。日程は検討中のため、決定後連絡する。

JCSA

来年 1 月に開催予定の全日本チェアスキーチャンピオンシップの要項が仕上がった。

(別紙資料参照)

2005 年の事業として、チェアスキー大会を 2005 年 3 月 3 日～6 日に、チャンピオンシップを 2005 年 1 月 13 日～16 日で開催を予定している。

JCCSA

北海道名寄で開催を予定している全国身体障害者スキー大会に関して、クロカンはなぜ

ポイントレースではないのかと地元から意見が挙げられているが、本件に関しては、参加選手数に大きな関係があるので、選手の参加希望数を踏まえ今後の検討課題とする。

SAJ-FID

普及部の議事録資料 P.68 にある、15 年 12 月に妙高で予定していた講習会を、菅平へと会場変更する。

5. 事務局報告

平成 16 年度独立行政法人福祉医療機構助成金申請(一般分、特別分) pp.73-77

今年度の指導者養成講習会を来年度も継続として申請を行った。結果が出次第報告する。特別分申請については、一般分の交付決定された団体は特別分の申請資格がないという連絡があり、受理されなかった。

役員(理事)変更の届出について pp.78-80

資料の通り、役員変更届を東京都に提出した。

パラフォト展(NPO 法人国際障害者スポーツ写真連絡協議会主催) 後援依頼 pp.81-88

本連盟に依頼のあった、パラフォト展の名義後援依頼を承認した。

また、第 24 回障害者歩くスキーの集いからも本連盟に名義後援の依頼がきているので、承認することとする。

連盟ホームページについて pp.89-92

各部からページアップの方法が不明な場合は、素材を事務局に送り、どのようにデザインするかを申し出ることとする。

東京都教育庁 学務部義務教育心身障害教育課よりの問い合わせについて pp.93-96

資料の通り、東京都教育庁から問い合わせがあった。今後事務局にて対応する。

日本パラリンピック株式会社よりの資料代について p.97

日本パラリンピック株式会社から資料の通り、原稿料として 29,370 円の振込みがあった。

6. その他

icetee

icetee から大会要項が届いた。各部で周知願いたい。また、連盟 HP にリンクを貼る。

審議事項

1. 平成 16 年度 TOTO(スポーツ振興くじ助成)申請について p.98

(平成 15 年 11 月 17 日より開始)

医学委員会と広報委員会から申請をする。また、FIS-D レース国内開催に関しても 1 件申請する。

2. 日本財団助成(ボランティア・NPO 活動)について pp.99-100

本連盟から新たに日本財団の NPO に関する事業に助成申請を行う。

3. 賛助会員の募集について 別紙

郵便振替用紙による賛助会員募集に関して、本日各理事が個々に賛助会員を募集する。

最低 10 口の獲得をノルマとする。また、強化指定選手にも積極的に賛助会員を募っても

らい、強化指定選手が集めた分に関しては、その全てを強化部にまわすことを確約する。
また SIA には既に協力していただいており、今後 SAJ にも協力依頼をしたい。
賛助会員の方には、メールベースでのマガジンやニュースレターを配布することを検討
中である。頻度は隔月が望ましい。

4 . 北米における FISD 公認アルペン大会参戦プランについて pp.101-102

本連盟国際委員の木村氏から、海外の FIS-D ポイントレースに関しての情報が届いた。
本連盟としては、このような海外試合に参戦したいという選手にどのような対応をする
のか、また、本連盟に登録をしていない選手が海外で FIS-D ポイントを取得した場合に
ついてはどのように対応するかなど、強化部を中心に早急に検討することとする。

5 . その他

強化部では、アルペン強化指定選手・スタッフ対象の合同部会を 12 月 6 日に上田市内で予
定している。

スキーセーフティープロジェクトという会社からリフトが緊急停止した際の降車用具新規
販売に伴い、障害者スキー関係者にも是非資料を送付したいとの問い合わせがあったが、
その資料が未だ届いていないため、後日資料が届き次第報告する。

今後各部において事業の変更（会場、日時など）があった場合は、理事全員と正会員
団体事務局にメールでその旨を連絡する。

次回の常任理事会

2004 年 2 月 JP 開催期間中

以上